



谷川連峰のだ真ん中を逍遥

## 谷川 谷川本谷～赤谷川源頭

煤孫

【日時】 2010年8月21日～22日

【メンバー】 L煤孫、木下、浅井、金沢

8月21日(土)

駐車場で念入りにヤマビルファイターを塗ってから歩き始める。ヒルが生息する山道を足早に通り過ぎた。二俣手前から沢通しに歩き始める。鷹ノ巣沢出合までは佐貫パーティのものと思われる足跡があった。鷹ノ巣沢出合で鷹ノ巣沢を見上げ、「暑そうだなあ。佐貫パーティはフライパンの上だなあ」と笑いながら足跡と別れた。

本谷もこのあたりから伏流になる。暑い日が続いていたので熱中症を心配していたが、幸いこの時間は曇りだった。しばらくして水が出てきて水量の多い川原歩きを楽しむ。上ノナメ沢出合の巨岩を見送ってしばらくして大滝(Y字滝)について(写真)。滝の下で休憩する。2週間前にこの滝を懸垂下降したのだが、登るにはどうしたらよいのだろう。

左から取り付いてテラスをトラバースし、右壁を登って奥ノナメ沢落ち口に行くのがよいと判断した。木下さんが「下からザイルを出そう」と言ってさっさとリードを始めてくれた。私はテラスまではノーザイルでよいかと思っていたが、後から思うと新人のいるパーティでは下からザイルを出すのが正解だった。

1ピッチ目は左から取り付いてテラスまで登り、ここでピッチをきった。2ピッチ目でテラスをトラバースして右壁に行き、ここでピッチをきった。3ピッチ目で奥ノナメ沢側の右壁を登って奥ノナメ沢側の滝口へ登った。3ピッチ目に残置ハーケンがいくつかあったので、みんなこのルートで登るのだろう。

Y字滝から奥ノナメ沢の滝を1つ登り、左手の灌木帯を乗っ越して本谷に戻る。本谷側が立っていてなかなか降りられなかった。しばらくトラバースして支沢を下った。

本谷に戻ってからすぐ、ちょっとした連瀑帯があった。お助けを出しながら登ったが、新人は確保した方が良かったかもしれない。

連瀑帯を過ぎてしばらく行くと、5mCSがあった(写真)。まく方が難しそうだった。木下さんが空身で登ってお助けを出した。

しばらく行くと三俣っぽい所にでた。この場所のことは記録で読んでいた。左からの支流の水量が一番多い。水量につられて左に入ってしまうとひどい目にあう。左の支流の上に湧き水があるそうだ。冷たくておいしい水だった。三俣を真ん中に入る。真ん中にはチョロチョロ水が流れていた。右俣は涸れていた。真ん中に入って正解だったと思う。

水が涸れてから沢型を忠実に追っていく。二俣があつて右に入る。沢型が消えると笹

藪をこいでしばらくして稜線に到着した。稜線から北北西に進路をとり、沢型を見つける。歩きやすい沢型をたどって赤谷川本谷に降りた。

赤谷本谷は美しい天国的な風景だった。癒し系の場所だ。すぐに幕場を探そうとしたが、意外に良い幕場が見つからなかった。ゴルジュの上まで歩いた。ゴルジュは難しくなかった。所々深く泳げる場所もあった。泳がなかったが。

沢が大きく東に向きを変える手前に草むらの平地を見つけて幕場とする。流木が全然なくて焚火ができなかったが、気温が高かったので楽しい夜を過ごした。夜の交信で、佐貫一パーティが予定通りオジカ沢ノ頭避難小屋に着いたことを知った。



写真 左:大滝(Y字滝)、右 5mCS

8/22(日)

幕場を5時半に出発し、赤谷川源頭の天国系のナメを歩く。美しい癒し系の場所だ。

沢が東に90度向きを変えた後に、テントを張るには適した幕場がいくつかあった。しかし木がないのでツェルトは張れない。ツェルトだった我々にとって昨日の幕場は正解だった。

1520m付近の二俣は、右俣の水量が多く見えた。ここを左に入った。沢型を忠実に詰めて、最後は笹藪をこぐ。稜線に到着し、しばらく歩いてオジカ沢ノ頭避難小屋に到着した。昨日佐貫パーティが泊まったところだ。

谷川岳までの稜線は気持ちの良い夏山散歩だった。トマに入会してから夏山縦走をしなくなったので、こんなときに夏山を感じる。このルートは下山が長くて嫌がる人もいるが、沢も楽しめるし夏山も楽しめるし一石二鳥だと思う。

【グレード】谷川本谷 2級上(雪渓がない場合)

【行程】8/21 駐車場(6:20)～ヒツゴー沢出合(7:20)～大滝(9:35-10:55)～赤谷川(14:30)～幕場(15:30)

8/22 幕場(5:30)～稜線(8:15)～オジカ沢ノ頭避難小屋(8:30)

【地図】水上